

# 市立角館総合病院建設に関する調査特別委員会報告

特別委員会報告中、前段の病院特別委員会設置について並びに基本構想は前号掲載のため省略します。

患者の待ち時間短縮を図るため、準備が整い次第としながらも、電子カルテの導入が予定されています。

他方、移転建設後の病院経営において、懸念される点も、多く指摘され、本特別委員会として、提起事項としてまとめています。

## 1 医療体制について

仙北市の医療体制については、医療局を設置した初期の目的である「市立病院と診療所の経営を医療局の傘下に置き、医療局主導による仙北市の医療体系の確立」に向けた機能が果たされていない。しかし、地域医療として救急体制は、どうしても維持し続けなければならぬ。

全国的にも自治体病院の経営は、極めて厳しい局面を呈しているが、地域医療を守り抜くために、以下の事項について提起する。

① 常勤医師の確保対策を強化

すること。

② 現在の医療体制を見直し、組織として市立角館総合病院内に医療管理者を置き、統括させ、管理者主導の医療体系を構築すること。

③ 医師を含めた全ての医療スタッフは、患者へのきめ細やかな、やさしい対応を徹底することにより、市民に誇れる病院を目指すこと。

④ 著しい人口減少の激化に伴い、両病院の経営方針について、抜本的な見直しを図ること。

## 2 市立角館総合病院について

① 建築工事に際しては、地元業者が建築工事に参入できるように、工事入札にあっては、指名業者を大曲・仙北地区を範囲として、下請け方式ではなく、JV方式により、地元業者の参入を促進すること。

② 敷地内の除雪方式として、融雪方式を検討すること。

③ 設備全般においてメンテナンス費用を考慮し、経費節

減に努めること。  
④ 移転建設後の土地の有効利用計画を早期に確立する。

## 3 市立田沢湖病院について

① 救急再開に向け最大限の努力をすること。

② 当面、田沢湖病院は、慢性期の療養型病院を基本とし、障害者等一般病棟の見直しを図ること。

③ 玉川温泉を利用している患者を取り込む工夫により経営改善を図ること。

これまでに、先進病院の視察研修も含め、17回の委員会を開催してきました。当局に對しては、非常に厳しい指摘もしてきましたが、可能な範囲で、基本設計に取り入れていただいた事は評価する一方で、利用者の利便性の追及に對しては、医師不足と財政難という大きな壁に阻まれた感もありました。

昨今の自治体病院が抱える課題は、医師不足をはじめ、一層進展する医療の機能分化等々、山積しています。加えて、人口減少と高齢化の急速な進行が、自治体病院の経営に、さらに追い打ちをかけることとなります。

しかし、地域医療を支える

ことは自治体の使命であり、とりわけ市内の救急体制の確保は命題であります。  
市立角館総合病院の移転建設を契機として、より市民に信頼される医療体制が充実され、願いを、本特別委員会の報告に代えさせていただきます。  
(八柳良太郎記)

## 教育委員会教育長による指導監督の徹底強化を求める決議

教育委員会を主宰する教育委員会委員長交替という重要案件にもかかわらず、議会への報告を欠いたことは、議会に對して一変の誠意を示す姿勢もなく、議会軽視の一語に尽きるものであり、極めて遺憾である。

非常勤の教育委員が月に1〜2回集まり、合議制で運営される現行制度は意志決定が遅く、責任も曖昧になり易いとは言え、教育委員会教育長の責任の欠如と指摘せざるを得ない。よって、市議会では、教育委員会教育長に對し、今一度、自らの姿勢を正し、教育基本法が掲げる理念に則り、教育委員会事務局職員の指導監督の徹底強化を強く求めるものである。  
以上、決議する。

平成26年3月12日  
仙北市議会

## 感謝状

株式会社 新潮社  
代表取締役社長 佐藤 隆信様

貴社は多年にわたり本市文化の発展のため多大なるご尽力を寄せられたことは洵に感謝に堪えない次第です。依ってここに秋田県仙北市市民と共に仙北市議会の決議を持って感謝の意を表します。

平成26年3月24日

秋田県仙北市議会